

数理的能力を活かし、伸ばしていける職場です。

就職活動中のみなさん、こんにちは。厚生労働省数理職に興味を持っていただき、ありがとうございます。私も皆さんと同じようにこのパンフレットをたまたま見つけ、今の職業を選びました。まだ5年程度のキャリアしかありませんが、数理職員としての経験や、仕事の特色についてお話できればと思います。

当省を志望した時の動機を思い出すと、「自分の得意とする数理学の能力を」「活かし」「伸ばしながら」「社会の役に立ちたい」という思いがありました。これまでの5年間を振り返ると、それがかなり実現できているのではないかと感じます。

最初に配属されたのは保険局調査課でした。ここでは医療保険に関する調査・分析や、医療費の分析を担当しました。2年間でデータの集計、分析に必要な数理的能力が鍛えられたように思います。特にレセプトデータという膨大な情報をプログラムで処理し、性・年齢・地域・疾病など様々な属性別の医療費の分析を行ったことが印象的です。数理的業務のみならず、係を構成する係員として調整・文書作成・決裁といった行政官としての基礎的な業務を一通り経験できました。

その次の2年間は年金局調査室で仕事をしました。今度は公的年金に関する調査・分析を担当し、いくつかの統計調査を実施したり結果のとりまとめを行ったりしました。公的年金は社会の関心が強く、ただ計算するだけではなく、分析結果をどう解釈するか、世の中にどう伝えるかも重要だと学びました。

現在所属している雇用環境・均等局勤労者生活課では、中小企業退職金共済という制度の数理設計を担当しています。詳しい業務内容は6ページをご覧ください。保険数理を用いた責任準備金の評価、資産運用、財政運営など、数理的能力が求められる仕事です。初見の知識が必

要となることも多々ありますが、自分で調べたり、数理職員のネットワークを活用して助言をいただいたりしながら取り組み、何かしらの答えを導き出した時には数学の問題が解けた時のような気持ちよさがあります。

また、以前の4年間は、比較的数理職員が多い部署にずっといたのですが、この部署で初めてチームにひとりの数理スタッフとなりました。私の分析や計算の結果が政策判断に直結しますので責任は重大ですが、それ以外にも、データをみてすぐにその傾向を把握したり、何かインプリケーションを導いたりする能力を、一緒に仕事をするメンバーからも期待されていることが多々あると感じます。

このように統計分析、プログラミング、保険数学、金融、経済、会計といった様々な知識・能力を用いる数理職ですが、初めから全て身につけておく必要はなく、その都度習得していくことができます。また、専門性を磨くための研修も充実しており、例えば私は海外の大学院で研究し学位を取得する制度で英国に2年間派遣される予定です。

最後に、就職活動中に出会い、その後の指針となった言葉をご紹介します。「Will（やりたいこと）、Can（得意なこと）、Should（すべきこと＝社会の役に立つこと）の3つの重なる仕事があれば、それをキャリアに選ぶと良い」というものです。この手記でご説明しましたとおり、数理的素養（Can）を活かしたいと思う人にとって、その才能が活かせ、また伸ばしていけるフィールドがここにはたくさんあります。さらに、ニュースや新聞で厚生労働省の文字を見ない日はほとんど無いくらい、当省の仕事は国民の生活に直結しており、Shouldの要件については迷うことなく満たされています。あとはどんな分野でも構いませんので、何か取り組んでみたい政策課題（Will）があれば、是非厚生労働省を就職先としてご検討いただければと思います。いつか一緒に仕事ができることを楽しみにしております。



雇用環境・均等局勤労者生活課数理係長

南條 貴紀 週末は趣味のタヒチアンダンスを楽しんでいます。（筆者は左）

経歴

平成25. 4 厚生労働省入省（保険局調査課）

平成27. 4 年金局事業企画課調査室

平成28. 7 年金局事業管理課調査室主査

平成29. 4 労働基準局勤労者生活課数理係長

（現 雇用環境・均等局勤労者生活課数理係長）